教育資源で日本リード　朝日新聞-2009.01.07

P.30

第3種郵便物認可　朝日新聞　2009年(平成21年)1月7

この不景気にどう立ち向かうか。集まった約750人の経営者らが語らった=5日、秋田市中通1丁目のホテル

不況嵐 吹き飛ばせ！

新年祝賀会で経済人に聞く

がんばれ秋田 新春特別編

年が変わっても吹き続ける世界経済の嵐を、どう吹き飛ばすか。秋田商工会議所の新年祝賀会で、県内経済人らに聴いた。がんばれ、秋田！

日本型経営に立ち返れ

秋田商工会議所　渡辺靖彦会頭(69)　すべての業種で景気が悪いが、あたふたしないで我慢するとき。景気は回るんだから、今は回復したときに備えて力を蓄えることが必要だ。企業内改革を推し進め、雇用を守り、人材を育成する「日本型経営」に立ち返って、景気の波に左右されにくい経営体質に変える。秋田には農業との連携にチャンスがある。加工品の製造などの後押しをしていきたい。

観光地結んでアピール

秋田銀行　藤原清悦頭取(65)　私の希望もあるが、景気が底を打つのは今年の遅くなってから、本当に良くなるのは来年下半期だろう。県全体としては企業誘致だけに期待せず、農業にからめた産業や観光にチャンスがある。人口は減っているから移動人口を増やすしかない。十和田湖や角館といった点として存在している観光地をつなげて面としてアピール出来れば強みを発揮できるのではないか。

従業員1人も解雇せず

日の出運輸企業　嶋田康子社長=県トラック協会長(63)　昨年は燃料費の高騰で四苦八苦した。年の後半に少し下がって楽になるかな、と思ったときに今度は荷物量が減った。景気の悪化で工場は減産し、紙や食品、自動車部品の原材料など荷物量は2割減だ。従業員140人は1人も解雇しない。特効薬はなく、耐え忍ぶしかない。ただ、朝の来ない夜はないのでしっかりやっていきたい。

林業 環境面でチャンス

秋田プライウッド　渡辺一徳常務(61)　この経済情勢では家は建てられず、木材需要は厳しい。回復は来年以降だ。が、秋田の林業には環境面でチャンスが来ている。違法伐採などが含まれる外国産材の使用が難しくなり、きちんと管理されている秋田など国産材の需要が高まる。国際的な価格競争を勝ち抜くよう合理化を進め、生産性を高めることが必要だ。

現場でニーズをつかめ

西武百貨店秋田店　森田岳史店長(56)　秋田のお客様が望むものを現場できちんとつかめば眠っている需要を掘り起こせる。景気のせいばかりにしてはだめ。

男性が多い忘年会は女性の見せ場。たとえばラメ入りのストッキングが売れる。なぜか、秋田は畳の上の会が多く、足が見えるから。「納得価格」も大事。福袋は低価格ではなく、2万～3万円のものがよく売れた。品質と価格が釣り合ったリーズナブルさが求められている。

教育資源で日本リード

国際教養大　中嶋嶺雄学長=国際社会学=(72)　経済的に見れば、世界が駄目なら秋田も厳しい。が、秋田は全国学力調査の好成績など、「教育資源」で日本をリードしようとしている。子どもたちが安定した心理で教育を受けられる環境がある。この資源は、企業誘致なんかよりよっぽど、経済効果が期待できる。

緊急雇用対策で臨職20人採用へ

湯沢市

湯沢市は6日、緊急経済雇用対策本部（本部長、鈴木俊夫市長）を設置、臨時職員約20人を採用して事務補助や現場作業などの仕事を提供する雇用対策案を打ち出した。

修繕工事1100万円分を前倒し発注し、中小企業向けの融資枠を500万円広げ2千万円に、雇用主も対象にした総合労働相談所の設置などの案も含まれる。対策案は今月中に開く臨時議会に提案する。

秋田コミュニティー FM76.5MHz

5.00	元気はつらつ歌謡曲
7.30	ハピネス・シャインズ
11.00	反畑誠一の音楽ミュージアム
15.00	アフタヌーンパラダイス
18.30	KOOL IT ○本家DJひろし
19.00	アニメ関門文化学園
20.00	週刊メディア通信
22.00	大西貴文のTHE NITE

あきた時評

弁護士
津谷　裕貴さん

100年に一度の経済危機

最初に脱するのは秋田

100年に1度と言われる今回の経済危機。世界同時不況となり、資本主義国家の欧米だけでなく、ロシア、中国も危機に陥っている。当然、秋田県も影響を受けている。

有効な対処法は誰も見いだせていない。日本は全治3年と言われているが、3年で治る保証はない。

今回の原因は、アメリカ型金融システムの崩壊と言われている。これが世界中に行き渡っていたから、アメリカがこけて、みなこけた状態になってしまった。

私が見るに、これは、投資型、いわばマネーゲームであり、世界中がこれに参加し、踊らされていた。ゲームであれば勝者と敗者があるが、このゲームに勝者はいない。それだけ、複雑、不思議な金融、経済システムになってしまって、誰も、どうすればいいのかわからない。

ところで、近く開催されるダボス会議で、麻生首相が、日本が世界で最初に経済危機を脱するという宣言をするかも？　という話を聞いた。もしも、その時の記者会見で、日本のどこが最初に経済危機を脱すると思うかという質問があれば、「秋田県だろう」と答えて欲しい。

その理由を問われれば、「天地人」（NHKの大河ドラマから）と答えたい。天とは、自然と運。地とは土地をはじめとする、ものと産業。人とは、文字通り、秋田の人と文化である。さらに、具体的内容を問われたら、次のように答えたい。

まず、天について。言わずもがな、豊かな自然。運は、アメリカ型金融システム、すなわち海外資本がほとんど入っていなかったこと。バブル経済崩壊のときもそうであったが、秋田県は、1周遅れていると言われているが、実は、これが幸いした。

次に、地について。何といっても豊かな農地。食糧自給率は160％を超え、全国2位を誇る。どんなことがあっても食いっぱぐれない。また、工業用地、宅地も豊富にあり、空港、港もある。道路、鉄道はこれから整備し、発展可能性がある。

そして、人。何といっても人間がまじめ。責任感があり、逃げない。世界トップレベルの人が医療、エネルギー、大学、農業、日本酒などの分野にいる。将来を担う小、中学生の学力は全国トップ。国際教養大学もトップレベル。大学、医療関係機関などは海外留学生などに門戸開放されている。何と、多重債務者を「なまはげ」が守ってくれる独自の文化もあるとか。

これらがきちんと発信できれば、秋田県は、世界中から注目され、住みたいと希望する人が殺到し、これまで人口減少県で悩んでいたのが一気に人口が増加し、エネルギー、医療、農業分野を中心に経済成長も世界トップクラスになるだろう。廃止を危ぶまれていた韓国便は増便に転じ、新たに、ロシア便、欧米便も夢ではない。

あとは、決断と、実行あるのみ。すべてを、前向きに受け止めたい。

負債総額は2番目

08年県内倒産 商工リサーチ 正社員解雇1379人

08年の県内企業倒産（負債総額1千万円以上）は前年比12・4％増の127件で、負債総額は17・9％増の356億2300万円に上ることが5日、東京商工リサーチ秋田支店のまとめで分かった。倒産件数は集計を始めた71年以降、18番目だったが、負債総額は2番目を記録した。

昨年は9月にジョイフルシティを経営するヤマサコーポレーションが58億5千万円、6月に老舗の建設業加藤組が28億1300万円の負債を抱えて民事再生法を申請するなど、負債総額10億円を超す大型倒産が8件あり、全体の負債総額が膨らんだ。

産業別では、建設業が47件と最も多かったが、前年より10件減った。一方で、製造業が前年より10件多い21件。景気低迷による受注の落ち込みや、燃料・原料の高騰を価格に転化出来ず収益を圧迫した。

倒産により解雇された従業員は正社員だけでも計1379人。派遣やパートなどを含めると更に多くなるという。

今後の見通しについて同支店は「製造業を中心に非正規雇用者を削減する動きが強まり、雇用情勢の悪化で個人消費の落ち込む悪循環に陥っている」と指摘。先行きの不透明感は更に強まっている、とした。